

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年10月26 日

(意訳) 喫煙がワースト：

デルタ株およびオミクロン株流行期における新型コロナ重症化リスク

【松崎雑感】

横浜市大のチームのデータです。入院が必要と判定された新型コロナ感染者で、重症化した場合の因子を検討すると、肥満や入院までに手間取った（4回以上日数がかかった）という因子よりも、タバコを吸う人々が4倍近く入院後重症（酸素吸入が必要な状態）になっていたという事です。肥満も、発病から入院までの期間が長いことも若干重症化リスクを増やしていましたが、何と云ってもタバコを吸うことが、酸素吸入が必要となるほどの新型コロナ重症化をもたらすという報告です。

喫煙がワースト：

デルタ株およびオミクロン株流行期における新型コロナ重症化リスク

Ogawa F (Department of Emergency Medicine, Yokohama City University, School of Medicine) , Oi Y, Honzawa H, et al. **Severity predictors of COVID-19 in SARS-CoV-2 variant, delta and omicron period; single center study.** *PLoS One.* 2022;17(10):e0273134. Published 2022 Oct 25. doi:10.1371/journal.pone.0273134

背景：ワクチン接種と治療法の進歩により、新型コロナ重症化リスクは抑えられてきた。しかし、新たな変異株の出現により重症化要因が変化しているかどうかを明らかにする必要がある。デルタとオミクロン株流行期における重症化要因を調査した。

方法：2021年8月から2022年3月までに横浜市立大学病院に入院した新型コロナ感染者を後顧的に解析した。（本文より）病状の定義：【軽症】無症状、酸素投与不要、CT上肺炎所見なし。【中等症】軽度の呼吸器症状あり、CT上肺炎所見あり、酸素飽和度93～95%。【重症】酸素投与必要（酸素飽和度92%以下）。

結果

解析対象患者141名（中等症91名、重症50名）。重症者は男性、ワクチン未接種者、過体重者で有意に多かった。発症から入院までの期間が4日を超えると有意に重症化リスクが増えた（オッズ比1.16）。喫煙者は非喫煙者より明らかに重症化リスクが高かった（オッズ比3.7倍）。

結論

（直ちに修正可能なリスク低下対策として：松崎）発病から4日以内に入院を行うことが、この時期の新型コロナ重症化を防止するうえで最も重要である。特に喫煙者については、早期入院が必要と考えられる。